******これからのグループホームのあり方　　北海道認知症グループホーム協会道東ブロック会長**

**虹　色　め　が　ね　通　信　年三回発行**

　　一般社団法人　　北海道認知症**グループホーム協会**

**道東ブロック**

**第三十六号　　発行所　　ＧＨ入江　釧路市入江町八の二九**

**北海道認知症グループホーム協会理事**

**株式会社　育成　釧路事業所　育成会　望・灯・楽**

**別海事業所　育成会　まごころ**

**小規模多機能ホーム　えがお　　　　代表取締役　板谷　俊英**

２６年度を迎えて道東ブロックの会長を務めることになりました。歴代の佐々木さん・斎藤さんと素晴らしいリーダーシップの優れた方の後ですので大変プレッシャーを感じているところです。尚且つ理事・総務委員長との仕事も一緒に２年の任期をしっかり会員の皆さんと役員の方々と共に協力と理解をいただきながらこれからグループホーム協会をより良いものにして行きたいと考えております。

26年10月1日に東京で全国グループホーム団体連合会の全国フォーラムがあり参加をしてまいりました。17団体の会員の皆さんが集結しました。現在又これからのグループホームの状況を話し合い、実践している内容を発表しておりました。シンポジウムでは「地域包括ケア、力を尽くせ!グループホーム」のテーマで、就任したばかりの厚生労働省老健局高齢者支援課　認知症・虐待防止対策推進室長の水谷氏と高橋絃士氏・大谷るみ子氏・和田行男氏、コーディネーターとしてテレビキャスターの町永俊雄氏の進行でトークバトルを行い、現在のグループホームに於ける危機感を水谷氏に問いかけ、少しでもより良い方向に迎える様訴えて下さいました。他の福祉施設とグループホームと同じ様な扱いを避けて欲しいとの要望も出ておりました。27年度には介護報酬が6％下げられる報道もあり、介護職員の確保も大変な状況に有る為、事業としては難しい選択をして行かなければならないと考えられます。事業所としては運営・介護支援を再度見直す時期に来ていると考えても良いのではないかと思っております。北海道グループホーム協会も全国の組織の皆さんと協力をしながら厚生省に訴えて行きたいと宮崎会長も言っておられました。現在介護職員の皆さんにスキルアップをしていただく為に北海道の助成金をいただきキャリパス事業を毎年開催しておりますが、この事業は会員の中から5事業所にお願いをして、振興局に申請を出し許可を受けながら行っている事業でありまして、道東ブロックの事業ではありません。しかし講師や研修のお手伝いはブロック役員の皆様が協力をして成り立っている事をご理解していただきたいと思います。北海道認知症グループホーム協会では26年度よりブロック活動費として前期後期での研修費として今年度は20万円までの補助金を使える事になっており、27年２月に研修を計画しております。日程内容が決まり次第ご連絡を致したいと考えております。多数のご参加をお願い致します。27年度は予算が決まり次第役員会で計画をして行きたいと考えておりますので、どんな研修を受けたいかは、道東ブロック役員にご連絡くださる様お願い致します。会員の皆様にご協力して欲しい事があります。

道東ブロックも２年に一度役員改正をしておりますが、他の会員様の中からも是非役員になりブロック運営にご協力をしていただきたくお願いを申し上げます。現在も長く役員を引き受けて下さっている方もおられますので徐々に世代交代をして行きたいと考えております。宜しくお願い致します。

**「認知症基礎研修会」　GHくつろぎ　江崎稔子**

C:\Users\owner\Desktop\虹色36\虹色36武田.jpg8月26日　武田純子講師の「認知症基礎研修会」に参加しました。

認知症という病気についての理解、中でもレビー小体型認知症・若年性認知症の事例を聞くことが出来とても勉強になりました。自ホームでの日常生活を思い返しながら講義を聞いておりましたが、自分達は認知症の人を本当に理解して（理解しようとして）接しているのか疑問に思える事が多々浮かびました。「その場しのぎの対応で相手の症状が良くも悪くもなるよ」との武田先生の言葉が印象的で、介護側の接し方で不満を募らせストレスになり怒り出したり、コミュニケーション不足からの「淋しい」「誰も自分を必要としていない」「理解してくれない」等の感情が「怒り」という表現になっていたのかもしれないと思いました。

　真剣に向き合う事、沢山話すこと、親身になって聴くことを忘れず、相手に対して「どうしたら」「何が」と自分に置き換えて考える事の大切さと探究心を持つことの重要さをもう一度自分自身に言い聞かせ接して行こうと思いました。

**９人一緒に何かをしなければ・・は捨てる！**　**GH　さんぽみち　管理者　　野村　恵子**

　この４月から管理者としての日々が始まり、不安と緊張でいっぱいの中さまざまな悩み・問題を抱えていました。その中でどうしても改善したい、”年間の行事・外出について、９人皆さんの体力的なこと、そして行事等に参加できていない現状とシフト”を思い悩んでいました。そこで、年間行事を今一度考え、大きな行事を少なくし、そのほかショッピング・外食などを、日常生活に組み込んで、そこに家族さんも巻き込んだら・・その考えに、ご家族にも賛同を頂き、試行している最中、この管理者研修会に参加させていただき、その中で、講師の武田先生は、９人一緒にケアすることを考えたら、何もできないでしょ、９人は別々の人　だから一緒に何かをしなければ・・は捨てなさい。そうきっぱり。さらに家族と一緒に支援する。ということも話してくださいました。　その言葉に、さんぽみちのケアはこの方向でいいんだ！背中を押された気分でした。

　また、食事についてミキサー食や刻み食が美味しいか？と話され、実際さんぽみちでも嚥下が難しい入居者さんの食事をどのように考えていったらいいか、ミキサーの傾向にありました。　もち米１合とうるち米１合の主食や　副食も圧力鍋を使用することに、考えも及ばず、研修終了後ホームに戻った私は、その話をするとそこは行動力のあるスタッフと、すぐやってみようとその日の夕食から　入居者さんの状態に合わせ試行すること２週間食べていただきやすい割合を見つけることができました。副食も圧力鍋を使用したり、再度コトコト煮直してみたり　毎食皆と同じ食事を全量召し上がってくれています。時々こっそり違う味にしてみたり大好きな手作りの甘味噌をご飯のお共に・・

武田先生の「私たちは、年寄りに支えられている。感謝しなくちゃ」は忘れてはいけないひと言です。

研修に参加させていただきありがとうございました。

**計画作成研修　GH武佐の杜　ホーム長　西方知江**

　平成26年11月4日、国際交流センターにおいてオホーツクブロック前会長で認知症指導者の青山由美子氏に講師として来釧して頂き、24名という少人数で個別の質問も受けて頂くという青山先生の気さくで柔らかい物腰で丁寧な指導をして頂き、計画作成の何たるか？を学ぶ事が出来ました。研修に入る前に一人の利用者さんをアセスメントする為、厚労省課題分析シート（勉強不足で見た事がありませんでした…）23項目を埋めて、其の後センター方式ｃ-1-2シートの記入という事前宿題があり、実際のところどこまで、この計画作成研修が理解できるか？という不安もありましたが、受けなければ分からないままだから、受けて少しでも身につけた方が良い！分からなければ聞けば良い！その為の研修だ！と恐れを知らない（笑）ポジティブな気持ちで受講しました。センター方式は以前より取り入れていたので、馴染みがあり、記入できたのですが、厚労省23項目は初めてで戸惑いつつ、本当に利用者さんの事をしっかりアセスメントしなければ書けないと感じました。利用者さん本人の個人史は勿論ADL、内服している薬の一つずつに及ぶ副作用の把握、出来る事、出来ない事etc,記入分析し、その中で本人、家族の希望も組み込んで、その中での優先順位を決めてEシートに記入しケアプランにおとしていきます。その中で皆でアイディアを出し、マンダラシートを使用する事で情報が整理できて、次々と支援が見えてくる事が解りました。ケアプランを立てるという事は自立支援を目指す計画だからニーズ欄はポジティブな書き方「○○できるようになりたい」「○○したいという書

**10月5日、松本医師のストレスケア研修**

****き方をすると活性化できるプランになるという事を学びました。また計画作成者一人だけでなく、スタッフみんなで情報を共有して、皆で考えないケアプランは成り立たない事も感じました。また介護者はプロとして服薬変更時の利用者さんの変化をD-4シ―とでデーター化して、医師にきちんとした根拠を持って進言できないといけないという事、そして服薬調整時は家族と共に日々利用者さんと携わっているスタッフも受診し、服薬説明をし、「医療との連携を図らなければいけない事もその通りだと思いました。それもこれも利用者さんの為になる事、認知症を患っていても懸命に生き抜こうとしている利用者さんに少しでも明るく楽しい生活を送って貰う為には、自分たちも勉強、努力を惜しんではいけないんだなぁと感じました。また認知症ケアは支援者もポジティブでないといけない！一緒に楽しんで生活していきたい！いずれは我も行く道と再確認させてもらった研修でした。

**グループホーム紹介コーナー**

**グループホームすずらん**

**管理者　　湯山　美香**

グループホームすずらん・らいらっくは平成15年9月、厚岸町門静地区に開設し今年で11年目を迎えました。当グループホームは医療法人が経営しており医師と看護師が毎日訪問、利用者様の健康状態を報告し必要に応じて対応してくれることや、利用者様の身体状況に合わせ法人内所属のリハ専門職と連携が可能な環境であります。現在4ユニットあり、平成24年9月に増設したユニットには専用運動室「元気の杜」を設置し利用者様が週2回、リハ専門職と連携を取りながら運動を行っています。

「元気の杜」は、運動を定期的に行える場所という以外に、別ユニット利用者様との交流の場であることや、利用者様･スタッフともに少人数のかかわりが出来る場所であることを特徴としています。実施してから2年がたちましたが、外に関心を示さなかった利用者様が畑に興味を持たれ、野菜作りやビニールハウスでのミニトマトを栽培し管理するまでの意欲に繋がった変化も見られました。また、日常生活では食事の準備・掃除･洗濯等を利用者様はスタッフと一緒に行われております。最近では室内消毒を兼ねた拭き掃除も利用者様の日課になりつつあり毎日が大掃除をしているような賑やかさです。喜怒哀楽が比較的はっきりしているため元気なユニットと言われており、利用者様はメリハリのある生活を送っておられます。

C:\Users\owner\Desktop\虹色36\DSC_0558.jpgこれからも利用者様がグループホームでの生活に楽しみを持ち、安心して暮らして頂けるよう努めて行きたいと思います。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

**これからの研修会**

12月17日　スタッフ研修

1月28日　スタッフ研修

講師　佐々木幸子氏

2月14日　ターミナル研修

**9月17・8日坂井氏のマナー研修**

講師　吉川　　　　　　　　　講師　吉川医師・藤田麗子氏等